



結婚・子育て、そして
女性が活躍できる環境づくり
～一人ひとりの希望の実現に向けて～

自然減対策についての政策提案

だいじょうぶ
みんながあなたの
サポーター



子育てするなら山形県

山形県知事 吉村美栄子

平成26年7月31日

結婚・子育て、そして女性が活躍できる環境づくり



- ◆ 少子化進展の背景は複合的な問題を抱えている
- ◆ そのため、結婚観・家庭観の醸成や結婚支援の充実、子育て支援の強化、さらには、女性の活躍促進等、総合的な支援を同時並行で進めていく必要がある

背景

未婚化・晩婚化の進展

- 若者の結婚観・家庭観の変化
- 出会いの少なさ

子育ての不安感、負担感の増大

- 地域社会におけるつながりの希薄化
- 経済的負担の増大(雇用の不安定化)

女性の就労継続の難しさ

- 出産後の就労継続が難しい
- 保育環境が十分でない

施策展開の方向性

結婚観・家庭観の醸成

結婚支援の充実

子育て支援の強化

女性の活躍促進

同時並行での総合的支援

若者のライフデザイン形成支援

【ライフデザインセミナー】

H25～

- 高校生 H25～
進学・就職・結婚・妊娠・出産・子育てなど、将来を見据えた人生設計を考えるセミナーを授業として開催
- 大学生 H26
結婚や子育てを含めた自らの将来について考えるセミナーを開催

【乳幼児とのふれあい体験】

H25～

- 乳幼児とのかかわりを通して、将来、自分が親になることを具体的に考えるための体験を小中高の授業として実施

【妊娠・出産等に関する正しい知識の普及啓発】

H25～

- 若い人に「妊娠・出産」について正しい知識を持ってもらうためのリーフレットを作成

結婚・子育てポジティブキャンペーンの展開

【ライフデザイン情報発信・交流事業】 H26

- 結婚や子育てに対するプラスイメージ発信のため、新聞やコミュニティ誌へ記事を掲載
- 結婚や子育てをテーマに若者が参加するワークショップを実施

【結婚・子育てに関する意識調査】 H26

- 若者、子育て世代、親世代を対象に、結婚、妊娠・出産、就労、子育て、三世代同居等に関するインタビュー形式の調査を実施

高校生を対象としたライフデザインセミナーの開催

概要

- 結婚や子育てを含めた10年後、20年後の自らの将来について考える機会を持ち、若いときからの結婚観・家庭観の醸成を図るライフデザインセミナーを開催
- 県立高校8校で家庭科等の授業として実施

充実・連携

高校における取組み

- 総合学科の設置高校を中心として、家庭科や「産業社会と人間」等の授業の中でライフプランを作成
- 社会人や卒業生による講話、インターンシップやボランティア活動などを実施

講演会

【演題】「自らのライフデザインを考える」

【講師】白河桃子氏（少子化ジャーナリスト、作家）

【主な講演内容】

- ・ 30代初めの未婚女性は3人に1人、未婚男性は半分。意識して結婚活動をしないと結婚できない。
- ・ 生む年齢には制限がある。30代前半頃までに最初の子を生んだ方がよく、男性も40歳以上になると授かりにくくなると言われている。子どもがほしいと思ったら、意志をもって授かること。
- ・ 結婚したい人は仕事を持つこと。2人で働けば世帯の収入が上がる。女性はしっかり仕事を持ち、男性はイクメンになる。
- ・ 山形では、豊かな自然環境の中、家族や地域の手助けを得ながら子育てをすることができる。

ワークショップ

グループに分かれて、それぞれが作成したライフプランを共有し、山形県で暮らしていくことを前提としたライフプランモデルをディスカッション後、全体で発表。

生徒たちの感想

- ・ これまで自分の結婚や子育てなどについて、あまり考えたことはなかったが、将来を考える良い機会となった。
- ・ 第1子は30代前半くらいまでには生んだ方が良いと知り驚いた。
- ・ 高校を卒業したら都会に出ていこうと思っていたが、山形県は三世帯同居世帯も多いなど、将来の生活や育児のことを考えると、地元に残って生活していくのも良いと思った。



- 平成26年度は8校で実施（平成25年度は4校で実施）
- 県内講師を養成 ○大学生対象のセミナーを新たに開催

乳幼児と児童生徒とのふれあい体験

山形県の取組み

- 乳幼児とのかかわりを通して、優しい気持ちや乳幼児への愛着を育み、将来、自分が親になることを具体的に考える機会を提供
- 県立高校5校で家庭科の授業として実施

ふれあい体験の内容

- ◆ 乳幼児と高校生とのふれあい（抱っこ・おんぶ体験、オムツ交換体験）
- ◆ 乳幼児の母親と高校生との交流（母親から出産、子育ての話聞く）

《母親と高校生との会話から》

高校生：妊娠中、旦那様はどんなことをしてくれましたか。

母親：日中でもだるくて眠くなるが多かったので、私がゆっくりできるよう、上の子どもを外に連れて行って遊んでくれていました。

高校生：子育てで楽しいことは何ですか。

母親：今までできなかったこと（寝返り、ハイハイ、お話など）ができるようになるのを見ると、本当に可愛く、疲れが取れ、励みになります。

県内市町村の取組み

- 小学校・中学校の授業等の中で、乳幼児とのふれあい体験を実施
- 山形県市町村総合交付金事業、若しくは市町村の自主事業として実施

市町村における具体的な取組み事例

- ◆ 乳児の発育、発達、抱き方、あやし方などについて保健師から講義を受ける
- ◆ 乳児とその母親を迎え、赤ちゃんとのふれあい体験を実施
- ◆ インタビューで質問して母親の思いを聴く



高校生 ➡ 親になり、子どもを持つことを具体的にイメージ

生徒たちの声

○ 将来、ぜひ子どもを持ちたいと思った。
○ 将来のことを考えることができた。今まで以上に、しっかりとしないといけないと思った。

母親の声

○ 子どもを持つことで、親への感謝する気持ちも強くなるので、子育てをしてもらいたい。
○ 自分の体験を学生が真剣に聞いてくれた。若い人の役に立てたのが嬉しかった。

小・中学生 ➡ 命の大切さ、自尊感情、親への感謝



若い人たちに妊娠・出産を 自らの問題として考えてもらうリーフレットを作成

男女ともに考えてみませんか ～妊娠・出産のこと～

- 若い人が「妊娠・出産」や「今、心がけたい健康管理」について正しい知識を持つことで、男性も女性も互いに思いやりをもって、自分の人生を選択できるようになることを目的に作成

メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 将来のライフプランを考えるうえで、自分やパートナーのからだや健康のことを「よく知ること」、「大事にすること」は重要 ◆ 妊娠や不妊のことは、男女がともに考えてもらいたい大切なこと ◆ 正しい知識を持つことで、男性も女性もお互いに思いやりをもって、自分の人生をプロデュースできるように！ 				
男性と女性の「こころとからだの変化」	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="387 911 1464 1102"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 女性の卵子は、年齢を重ねるとともに質・量とも低下 ◆ 自然に妊娠する力は30代から低下 ◆ 年齢を重ねるとともに、妊娠率が低下 </td> <td data-bbox="1464 911 1671 1102" style="background-color: #e91e63; color: white; text-align: center; vertical-align: middle;">女性</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1102 1464 1262"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 精子にも老化があり、40代になると運動率、質が低下 ◆ 年齢を重ねるとともに、妊娠率が低下 </td> <td data-bbox="1464 1102 1671 1262" style="background-color: #3f51b5; color: white; text-align: center; vertical-align: middle;">男性</td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 女性の卵子は、年齢を重ねるとともに質・量とも低下 ◆ 自然に妊娠する力は30代から低下 ◆ 年齢を重ねるとともに、妊娠率が低下 	女性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 精子にも老化があり、40代になると運動率、質が低下 ◆ 年齢を重ねるとともに、妊娠率が低下 	男性
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 女性の卵子は、年齢を重ねるとともに質・量とも低下 ◆ 自然に妊娠する力は30代から低下 ◆ 年齢を重ねるとともに、妊娠率が低下 	女性				
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 精子にも老化があり、40代になると運動率、質が低下 ◆ 年齢を重ねるとともに、妊娠率が低下 	男性				
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保健所主催の健康教育セミナーでの活用 ◆ 市町村等が主催する各種セミナーや成人式での活用 ◆ 大学生対象のライフデザインセミナーでの活用 など 				



やまがた結婚サポートセンターによる支援 H24～

【個別のお見合い推進】

- 1対1の出会い支援サービスの導入 (H26～)
- 支所の開設 (H26)
- 出張登録会の開催 (H26)

【出会いの機会の創出】

- 出会いイベント情報の発信 (ホームページ、メルマガ)
- イベント開催団体への支援

【企業と連携した交流促進】

- 企業間の独身者交流パーティーへの支援

地域ぐるみで結婚を応援

【やまがた縁結びたい】H25～

- 結婚を希望する独身男女の出会いの機会を拡大するための仲人活動への支援
(H26.3現在の登録者 34)

【やまがた婚活応援団+ (プラス)】H22～

- NPO、商工・農業団体、企業、行政等の団体・個人が参加し、結婚応援気運を醸成
(H26.7現在の会員 150)

結婚サポートセンターによる支援

これまでの取組み

- H21 **やまがた出会いセンター (H21. 8)**
◇出会いイベント情報の発信(HP、メルマガ)
- H22 **やまがたお見合い支援センター (H23. 1)**
◇結婚希望者の情報を集約し、お見合い相手を紹介
- H23 **企業間独身者交流支援センター (H23. 8)**
◇企業の協力のもと、企業の独身者の交流する機会を創出

3センターを一元化

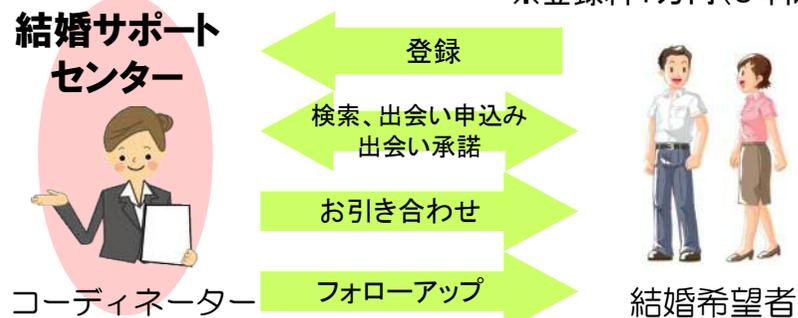
「やまがた結婚サポートセンター」 (H24. 5 設立)

- 1対1のお見合い会員を引き合わせる
「お見合いコーディネート機能」を追加

1対1の出会い支援サービス

「出逢いやまがた」 (H26. 1~)

- ・センターのタブレット端末を利用し、会員が条件を入力し希望の相手を検索できるマッチングシステムを導入
※登録料1万円(3年間有効)



《システム導入の効果》

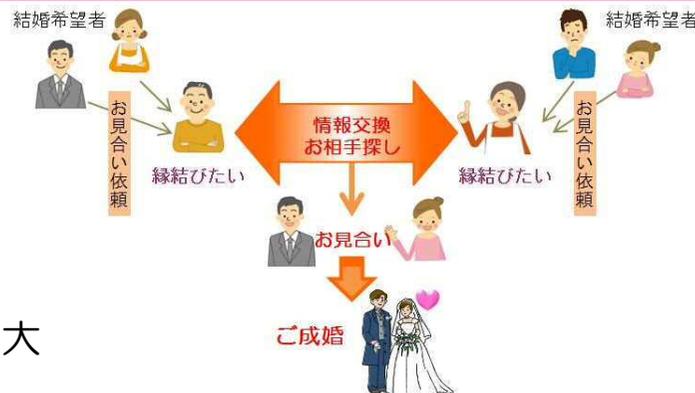
- ◆タブレット端末でのお相手検索【検索時間の短縮】
- ◆お引き合わせ設定の連絡などを会員専用ページ(HP、電子メール等)で受け取り可能【最新情報を随時取得】
- ◆支所や出張登録など、センター以外の場所での登録受付・閲覧が可能【来所時間の短縮】【県内全域でのサービス提供】

やまがた縁結びたいによる支援

『やまがた縁結びたい』 (H25. 9~)

結婚を希望する独身男女に寄り添ったきめ細かな支援を行うため、仲人活動を行う『やまがた縁結びたい』を創設し、お見合い支援を強化

- ・縁結びたい同士の情報交換(月1回)
- ・研修会の開催
- ・「仲人養成講座」の開催による登録者の拡大





仕事と家庭の両立支援の推進

【待機児童ゼロ緊急プロジェクト】

- 関係市町村と連携し、待機児童解消加速化プラン等の積極活用や県単独による緊急支援により平成25・26年度に施策を集中的に実施

H26.4.1待機児童
ゼロ達成！

【放課後児童クラブ 指導員の処遇改善】

- 放課後児童クラブ指導員の有資格者に対する給与の上乗せ支援

子育てに係る経済的負担の軽減

【多子世帯に係る保育料負担軽減】

- 認可・認可外等保育施設の種別に関らず、同時入所する場合の保育料への助成

【子育て支援医療給付事業費助成】

- 乳幼児及び小・中学生の保険診療に係る自己負担額について助成するもの
(市町村の補助額の1/2を県が助成)

妊娠・出産・子育て支援

【妊娠期から子育て期までの切れ目のない訪問型支援モデル事業】

NPOを主体とした子育て家庭への訪問型支援（産前・産後期・子育て期の継続した家庭訪問支援）を市町村と連携しながら実施

多子世帯に係る保育料負担軽減

認可・認可外等保育施設の種別に関らず、同時入所する場合の保育料への助成
(第2子…1/2 第3子…無料)

子育て支援医療給付事業費助成対象の拡大

子どもの健康な発育を支援するとともに、次の世代を担うべき子どもを生き育てやすい社会環境を整備するため、医療費の自己負担額を軽減するもの

制度の概要

乳幼児及び小・中学生の保険診療に係る自己負担額について助成するもの（市町村の補助額の1/2を県が助成）

対象者		
現行	入院	中学3年生まで
	外来	就学前（0歳～6歳児）まで

平成26年7月より助成対象を拡充

拡充後	入院	中学3年生まで
	外来	小学3年生まで

対象者数（平成26年度見込み）

- ▶ 就学前：59千人
 - ▶ 小4～小6：31千人
 - ▶ 小1～小3：28千人
 - ▶ 中1～中3：32千人
- 【合計】 150千人

県における主な拡充の状況

- ◆平成21年7月：対象年齢の引上げ
(入院：就学前 ⇒ 小学6年生)
- ◆平成24年7月：所得制限の撤廃
- ◆平成25年10月：対象年齢の引上げ
(入院：小学6年生 ⇒ 中学3年生)
- ◆平成26年7月：対象年齢の引上げ
(外来：就学前 ⇒ 小学3年生)

県内市町村の状況（平成26年度見込み）

		入院対象年齢
		中学3年生まで
外 年 来 対 象	小学3年生まで	1団体
	小学6年生まで	4団体
	中学3年生まで	30団体

女性の活躍促進

【マザーズジョブサポート山形の設置】

- 結婚・出産・育児期にいったん仕事を辞めることとなった女性の就職希望に対応し、仕事と子育ての両立に向けた不安・心配を解消し、一人ひとりのニーズに応じた子育てと就業をハローワークと連携し、ワンストップで支援

【ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰】

- ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる優良企業を表彰することにより、他の企業への普及啓発や動機付けを促進
(これまでの受賞企業 13社)

【女性の活躍促進に向けた企業実態調査】

- 企業における、女性の活躍を阻害する要因や、優良取り組み事例、より効果的なインセンティブの在り方等について訪問調査を実施

【山形いきいき子育て応援企業の認定・支援】

- 働く女性の活躍や仕事と家庭の両立支援のための「宣言企業」、「実践(ゴールド)企業」、「優秀(ダイヤモンド)企業」の段階的登録の拡大と、企業に対する各種奨励金の交付

【女性の活躍推進フォーラム】

- 女性の力を活かすマネジメントや企業におけるワーク・ライフ・バランス優良事例を紹介する講演会を実施
- 参加型ワークショップを通じた参加企業同士の取り組みの共有化

【県審議会等における女性委員の積極的起用】

- 県部局ごとの年次計画に基づき、県審議会等における女性委員の積極的起用を推進
(H26.3現在 女性委員の占める割合 40.1%)

「マザーズジョブサポート山形」の設置



- ◆ 結婚・出産・育児期にいったん仕事を辞めることとなった女性の就職希望に対応
- ◆ これから働こうとする女性一人ひとりのニーズに応じた就業のワンストップ支援窓口を、ハローワークプラザ山形内に開設（平成26年9月オープン予定）し、ハローワークにおける職業紹介機能との連携による一体的なサービスを提供



女性への就労支援に関するワンストップサービスの提供

マザーズジョブサポート山形 新設

《提供する機能》

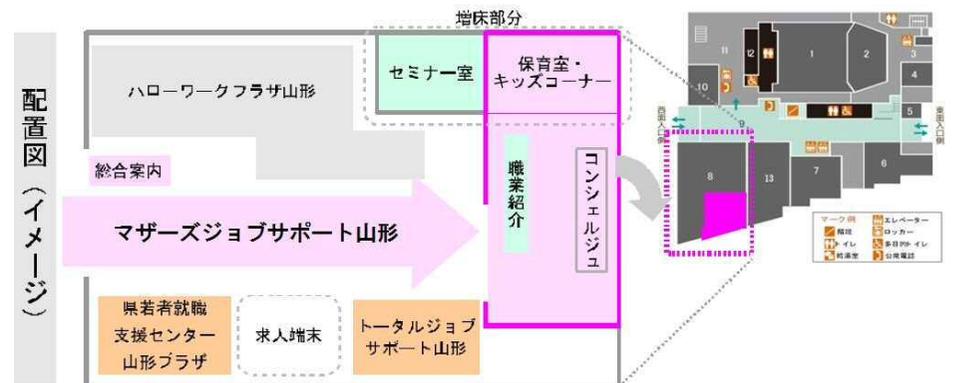
- コンシェルジュの配置による総合相談
 - ▶ 就職の環境や条件が整っていない女性等の相談
 - ▶ 仕事と子育ての両立に関する相談・支援（保育情報など）
- ひとり親自立支援、看護師・福祉職員等専門職の就職に係る相談
- 仕事と子育ての両立などに関するスキルアップセミナーの開催
 - ▶ 山形労働局と連携した開催
- 相談・就職活動中の託児サービスの提供など
利用しやすい環境を整備



ハローワーク 既設
「マザーズコーナー」

《提供している機能》

- ハローワークにおける職業紹介等
 - ▶ ハローワークでの職業相談・職業紹介
 - ▶ 求人情報・労働市場情報の提供
 - ▶ 各種支援制度に関する情報提供
 - ▶ 職業訓練に関する相談
- 就職に関するセミナーの開催



▶ **働く人を大切にすることで、家庭も社会も、そして企業も良くなるという社会機運を醸成**

＜優遇措置の例＞

【ゴールド企業】 県競争入札参加資格者名簿（建設工事）評価加点、奨励金の拡充、
県商工業振興資金における利率優遇(1.8%→1.6%)

【ダイヤモンド企業】 ゴールド企業優遇措置 + 知事との新聞紙面対談



～優秀(ダイヤモンド)企業の取組み～

日東ベスト(株)

- ◆ 育児休業3歳まで
- ◆ 介護休業1年まで
- ◆ 育児を事由とする退職者の再雇用制度
- ◆ 事業所内保育施設を設置（県内2カ所）
- ◆ 妻の分娩時に2日間の特別有給休暇
- ◆ 子育ての悩みなどの人事責任者申告制度



キャド・キャム(株)

- ◆ 女性の積極的採用・管理職登用
- ◆ 育児休業3歳まで
- ◆ 独自の有給休暇制度（育児参加休暇、マタニティ休暇、入園・入学・卒園・卒業時の休暇など）
- ◆ 子連れ出勤可能
- ◆ 育児等休業中の連絡（レクリエーション等行事への積極的な参加促進）



女性の活躍促進に向けた
企業実態調査

女性の活躍促進に向け、企業における阻害要因や優良取組み事例、より効果的なインセンティブの在り方等について調査を実施

- 山形いきいき子育て応援企業から50社程度を選び、訪問による詳細調査を実施

やまがた6次産業化女性起業応援セミナーの開催

～地域女性活躍加速化交付金の活用～



目的 地元の特産品を活用した6次産業化に取り組む女性の起業を応援

開催内容 起業応援セミナー&ビジネス相談会

- ・女性による6次産業化の実践事例発表（ままちゃん工房 ほか）
- ・専門家によるビジネス（起業）相談

開催場所 山形県村山市

参加者 約70名

商品化の内容 バラなど地域資源を活用した関連商品（特産品）の開発



特産品を活用した商品開発の実践事例がきっかけ

実践団体名 『ままちゃん工房』（構成：女性7名、年齢50歳～60歳代）

所在地 山形県最上郡大蔵村。県の北部。人口：3,485人〔H26.6現在〕
冬季間の積雪深：肘折温泉で最大4m程度

県と大蔵村による補助

[県] 試作経費、試食販売費
→ 特産品である「トマト」を使った「生キャラメル」の商品開発

[村] オープン購入費、加工施設整備

実践の経緯

- ・村の活性化のために開催していた全国大会（歩くスキー）参加者へのおもてなしのため、お土産品の開発に取り組んだことがきっかけ
- ・専門店シェフの指導を受けるなど試行錯誤の結果、そば粉100%のクッキー「おおくら君」を完成。デザインは地元の巨大雪だるま（高さ30m、ウエスト172m（ギネス記録））
- ・補助金を活用して地元産トマトを使った生キャラメルを開発

〔ままちゃん工房のメンバー〕



〔そば粉100%クッキー・トマト生キャラメル〕



提案① 若者のライフデザイン形成支援

○ 若いときから、結婚や子育てを含めた自らのライフデザインを考える機会を持つことが重要

〔 キャリア教育の幅を従来の職業中心から生活（生き方）まで
広げ、教育の場で展開することが効果的 〕

○ 妊娠・出産、母体の健康についての正しい知識を伝える普及啓発の推進が重要

提案② 結婚・子育てポジティブキャンペーンの展開



- 結婚や子育て、家庭を持つことを前向きに捉える意識の啓発を行うポジティブキャンペーンの政府を挙げた展開が必要
- 夫婦がともに働き、ともに家事・育児を行うのが当たり前の社会を実現していくことが必要

少子化対策は社会の活力の維持に加え、
一人ひとりの幸せの実現のためにも必要。
結婚や家庭を持つこと、子育てには苦労もありますが、
それ以上の喜び、幸せが待っています。

幸福実感は、未婚者より既婚者が高く、また、子どもの数が多いほど高い傾向にある。

(平成25年度県政アンケート調査より)

提案③ 子育て世代の経済的負担軽減策の充実

山形県



- 多子世帯に対する保育料軽減措置の拡充
- 子どもの医療給付制度への支援 など

多子世帯に対する経済的負担を軽減する措置が必要。
1人から2人、
2人から3人へ!

提案④ 女性の活躍促進

- 企業における意識改革
 - ・ ワーク・ライフ・バランスや女性の管理職登用、男性の育児参画等を推進するため、経営者や管理者の意識を変えることが必要
- 出産・育児・介護などライフステージに応じた女性の就業継続・再就業支援

提案⑤ 継続した財政支援

- 地域の実情に応じた地方公共団体の取組みに対する継続した財政支援を行うことにより、政府と地方公共団体がともに少子化対策を実施することが必要
 - ・ 地域少子化対策強化交付金
 - ・ 地域女性活躍加速化交付金

} 拡充・継続

女性も男性も共に働き共に育むことができる社会

～女性の活躍 ウーマノミクス で日本を変える～



提言Ⅰ 働きやすい環境の整備

1 企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進

- ・長時間労働の縮減に向けた取組みの強化を図り、制度改革を進めることで企業経営者や管理職層の意識改革を促進

2 就業継続のための支援の取組み

- ・中小企業への優遇措置を創設するなど女性の就業継続に取り組む企業の支援強化

3 再就業のための支援の取組み

- ・都道府県が取り組む再就職支援相談窓口など再就業希望者支援の強化

4 男性の家事、育児参画の推進

- ・男性の育児参画休暇創設、企業における男性の育児休業の取得目標設定の義務化と実績公表

提言Ⅱ 女性の活躍促進

1 指導的地位に占める女性割合の増加を図る

- ・数値目標の設定義務化と達成状況の「見える化」推進

2 女性人材の積極的な育成

- ・キャリア教育の充実など女性の活躍フィールド拡大を支援

提言Ⅲ 女性の就労意欲を高める 社会システムの構築

- ・税制や社会保険制度の見直し促進

提言Ⅳ 「日本の未来を創る 女性活躍応援基金」の創設

- ・地域の実情に合わせた施策展開を継続的に支援するための基金創設



政府と地方が一体となって取り組む

結婚観・家庭観の醸成

結婚支援の充実

子育て支援の強化

女性の活躍促進

同時並行での総合的支援

結婚・出産・子育てしやすい社会

女性がさらに活躍できる社会

一人ひとりの希望の実現へ

